

取組名称	平和の種プロジェクト
団体名	ひまわり応援隊 平和の種プロジェクト実行委員会
代表者氏名	堀本 喜正
地区名	鼎地区

取組みの目的	<p>令和4年5月、戦火を逃れたウクライナの皆さんが、避難民として高森町に来町されました。交流する中で避難民の皆さんから、ウクライナに残してきた家族を心配する言葉や、母国の平和復興を願う気持ちを聞き、心を打たれ、「私たちだから出来る支援をしたい」と考え活動を始めました。</p> <p>(ひまわり応援隊としては令和3年4月より活動を始めており、本プロジェクトはその中の活動の一つとして計画実施しました。)</p>
具体的内容	<p>プロジェクトの流れは以下の通りです。</p> <p>「ひまわり種の配布」→「ひまわりの栽培」→「ひまわり種の収穫と回収」→「ひまわり油の製造販売」→「売上金の寄付」→「写真展の開催」の順となります。</p> <p>「ひまわり種の配布」の前に一番注力したことは、賛同・協力頂ける方々にプロジェクトの趣旨を説明し、十分理解して頂き、強力な理解者になって頂いたことです。その上で、期間の長いプロジェクトをスタートさせ、一歩ずつ活動を進めました。</p>



説明 6月種蒔き（作業後に皆で記念撮影）



説明 7月（遊休農地が一面のひまわり畑に変身）



説明 9月収穫（大変暑い中での作業でした）



説明 11月ひまわり油の製造が始まりました

取組の経過	<p>「ひまわり種の配布」「ひまわりの栽培」「ひまわり種の収穫と回収」 飯田下伊那14市町村をはじめ長野県内各地の賛同者に、約35万粒の種を配布しました。8月から9月には多数のひまわりが開花し、収穫期には企業、団体、個人から、約1.6トンのひまわり種が集まりました。（新聞紙上やテレビニュースでも、その都度取り上げて頂きました）</p> <p>↓</p> <p>「ひまわり油の製造販売」 阿南町の加工所等でひまわり種を絞り、ひまわり油を製造し販売しています。</p> <p>↓</p> <p>「売上金の寄付」 ひまわり油の製造費用を除く売上金の全額を寄付する予定です。</p> <p>↓</p> <p>「写真展の開催」 ひまわりの開花風景や、プロジェクトに関係する写真や資料の展示を予定していません。</p>
取組の効果	<p>プロジェクトを行う中で強く感じたことは、「想いは必ず繋がる」ということです。初めは小さかった活動も、人から人に心が通じ、次第に大きく成長していったような気がします。</p> <p>また、趣旨に賛同しご協力下さった方々の中には、「遊休農地や耕作放棄地の活用」、「教育的プログラムへの組み込み」、「地域組織の活動として」、「高齢者施設でのアクティビティーとして」、「ひまわり油を使用した地場産品の開発」等々、様々な形で活用されました。</p> <p>ひまわりは観賞用や搾油用としても勿論ですが、プロジェクトの活動自身も大きく広がりのある可能性を持っていると感じました。</p>
今後の取組	<p>令和5年度も引き続き平和復興や人道支援を目的に活動をして参ります。本年度の取り組み中での改善点をクリアし、多くの方に取り組んで頂けるプロジェクトを展開して参ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ひまわり栽培を通じた平和復興、人道支援 2. 遊休農地や耕作放棄地の活用など地域問題解消への取り組み 3. 地域活動や高齢者施設との連携 4. ひまわり油を使用した地場産品の開発 5. 長続きさせるための仕組みづくりと体制づくり

○取組経費 （単位：円）

	事業費総額（見込み）	444,968
	うち助成金（見込み）	300,000
主な経費内訳	事業費（種、配布用袋、コンテナ等の必要物品の購入）	290,631
（上位3項目）	広報・印刷費（案内チラシ、販促ポスター等の作成費）	154,337

取組名称	SDGs竹鶏小屋で地域課題を知る事業
団体名	NP0法人はなぶさ学園
代表者氏名	木下英幸
地区名	飯田市

取組みの目的	<p>現在各分野で以下のような問題を抱えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1〈農業〉担い手不足・休耕農地の増加 2〈林業〉放置竹林 3〈教育〉不登校児童の増加 4〈環境〉ゼロカーボンの普及 5〈福祉〉第3の居場所不足 <p>社会が複雑化・多様化して従来通りの方法では地域住民の課題解決は難しくなっています。これからは総合的・重層的に縦横の連携を強化して課題に取り組み地域共生社会を実現する必要があります。</p> <p>地域資源を活かしたSDGs竹鳥小屋を各文の担当者に関わっていただくことにより、担当分や以外の課題も知ってもらい横の繋がりの交流・連携で地域課題の解決に繋げていきます。</p>
具体的内容	<p>各分野毎にテーマを決めて制作します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1鶏を飼う→農業 2放置竹林を使う→林業 3子供たちが高校生、大学生と交流して学習する→教育 4太陽光パネルを使う→環境 5第3居場所作りとしての提案→福祉



説明

設計



説明

竹取り



説明

製作



説明

完成

取組の経過	6月11日 プロジェクトチーム結成・交流会 6月12日 製作会議 6月19日 チキントラクター製作・交流会 6月24日 竹、勉強会 6月25日 製作会議 7月2日 チキントラクター製作 7月19日 製作会議 7月20日 製作会議 7月31日～8月11日 製作 9月23日 反省会 10月9日 チキントラクター製作 11月11日 会議 南信州地域振興局 11月12日 会議 阿智村役場 11月18日 竹クラフト体験 2月6日 勉強会 愛知県大府市
取組の効果	○明治大学、下伊那農業高校、高陵中学教員、南信州地域振興局林務課、を交えながら放置竹林のことを学ぶことができた。 ○南信州新聞社の一面に大きく掲載され放置竹林の課題を知ってもらう事ができた。 ○実際に竹を切るところから始め製作したので竹の特性を十分に理解することができた。 ○他地域の取り組みを勉強することができた。 ○南信州地域振興局林務課、飯田市林務課と来年度の活動の連携を進めている。 ○飯田警察署、飯田広域消防署と来年度の活動の連携を進めている。
今後の取組	○来年は実際に放置竹林の解決に向けた具体的な活動を行う。 ○竹イベントを令和5年7月8日（土）にかざこし子どもの森公園で開催。 ○松川中央小学校で竹を使った授業を行う。

○取組経費 （単位：円）

	事業費総額（見込み）	500,000
	うち助成金（見込み）	300,000
主な経費内訳 （上位3項目）	材料費	290,000
	広告印刷費	100,000
	謝礼	60,000

取組名称	「パンの店」の商品拡充及び地元産小麦を活用した新商品の開発
団体名	食工房 十三の里
代表者氏名	長沼 昭子
地区名	上久堅

取組みの目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に作りたてのおいしいパンを届けたいと始まったパン作り。更に「パンの店」として地域の人に足を運んでもらい買ってもらう。その為に新商品の拡充、地元産の材料を使った商品の開発をして販売したい。 ・地域の人に来てもらい「食工房十三の里」を知ってもらい仲間を作り、安定した継続を計る。
具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合わせた商品やお客様の要望を取り入れた商品を販売。 ・地元産の小麦粉を使った「おやき」の販売。 ・仲間作りの為にパン教室の参加を呼びかけした。 ・会員ひとりひとりがパン作りに携わる様、教室で講習を受ける。



説明

パンの店



説明

パンの店



説明

食パン



説明

食パン生地

取組の経過	<p>※8月オープン故障 立替払いにより購入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月第一土曜日「パンの店」、第三火曜日「パンの日」 ・9月2日 地元産小麦の持ち込み有 ・9月20日 その小麦の利用法について話し合い ・9月26日 市長と語る会で小麦粉ライ麦パンを試食していただく ・10月7日 おやきとして試作する ・10月 パン作り講習会 毎月実施することに ・11月3日 おやき作り→毎月販売することに ・12月 パン作り講習会Iターンの方が参加 <p>パンチーム毎月販売商品等について話し合いをする</p>
取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当の他に出来たてパンが食べられると好評 ・リピーターが多く開店を待つ人々でにぎやか ・「パンの店」でお弁当の「食工房十三の里」への認識が変わった ・声かけや「パンの店」に来てくれたIターンの方も会員になってくれた ・地元産の小麦を使った「おやき」を販売した
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・来てくれたお客さまを飽きさせない商品作りを更に深めていく ・地元産の小麦をパンに合うものを栽培してもらいパンを焼いて販売したい ・「パンの店」から地域の人々が生産物を持ち寄って地場産市としていき、集まった人々の交流の拠点にしたい

○取組経費 (単位：円)

	事業費総額 (見込み)	1,467,710
	うち助成金 (見込み)	300,000
主な経費内訳	労務費 (見込み)	499,837
(上位3項目)	材料費 (見込み)	403,550
	備品費 (見込み)	273,200

取組名称	地域で見守るみんなの安全～みんなで支え合う防災・減災の地域づくり～
団体名	山本地区自主防災連絡協議会・山本地域づくり委員会
代表者氏名	会長 塩澤 章男
地区名	山本

取組みの目的	<p>○地域防災力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰一人取り残さない防災活動」を目指し、安全安心に暮らせる山本地区の実現 ・地区防災・減災対策の充実 ・地区防災組織の活性化 ・住民の防災意識の向上、コミュニティ意識の向上
具体的内容	<ol style="list-style-type: none"> ①「山本の防災を考える会」の組織化による検討 ②区長、平長等を対象とした防災研修会の実施 ③上記活動を踏まえた地区役員向け「山本地区防災計画・マニュアル」の改訂と住民向け「防災リーフレット」の作成 ④上記③を活用した各種学習会等の開催 ⑤組合に加入していない世帯に対する「防災リーフレット」を活用した声掛け、安否確認用世帯名簿作成



説明 地区役員向け防災マニュアル



説明 住民向け防災リーフレット

取組の経過	<p>①「山本の防災を考える会」の組織化による検討（9回開催）</p> <p>○構成 ・自主防災会役員、消防団、防災支援班（消防団OBによる構成）、顧問</p> <p>○目的 ・万が一、災害が発生しても対応ができるよう、地区の現状や実態に即した防災の在り方やあるべき姿について、基本的な考え方を整理する。 ・地域づくり委員会組織見直しと地区における災害時の被害想定を踏まえ、災害規模に合わせた組織や初動体制を整理し、現行の防災計画に反映する。</p> <p>○学習活動と検討内容等 ・令和3年6月18日、市危機管理課による被害想定学習会を行い、その情報を元に、地区で実際に想定される地震災害、風水害（土砂災害）の状況を踏まえた被害想定を整理した。 ・被害想定を踏まえた初動体制、住民から本部までの情報収集・共有・伝達方法、支え合い、助け合いの仕組みづくり等を検討。</p> <p>②区長、平長等を対象とした防災研修会の実施（令和3年10月28日 市危機管理課）</p> <p>③上記活動を踏まえた地区役員向け「山本地区防災計画・マニュアル」の改訂と住民向け「防災リーフレット」の作成（令和4年7月地区へ配布）</p> <p>④上記③を活用した各種学習会等の開催 ・区長、平長等を対象とした学習会の開催（令和4年6月5日） ・区・平単位、組合を単位とした学習会の開催（令和4年7月以降、各地区で実施） ※組合単位の学習会は地震総合防災訓練に合わせて実施予定であったが、コロナ影響のため、10月以降、状況を見ながら実施。 ・令和4年9月4日の地震総合防災訓練は、コロナ感染警戒レベルが高い状態が続き中止。</p> <p>⑤組合に加入していない世帯に対する「防災リーフレット」を活用した声掛け、安否確認用世帯名簿の作成（コロナ影響のため、令和4年10月以降、状況を見ながら実施中）</p>
取組の効果	<p>①災害発生時における地区防災組織及び住民の防災・減災活動の充実</p> <p>②災害に対する住民の関心や意識の向上</p> <p>③災害発生時に、地区全体で助け合い、支え合うコミュニティ意識の醸成（地域コミュニティの再構築）</p>
今後の取組	<p>①毎年の防災訓練等でマニュアルやリーフレットを活用し、内容の充実を図る。</p> <p>②防災リーフレットは、2～3年程度は内容を更新しながら各世帯に配布する。</p> <p>③毎年、防災訓練に合わせた学習会を開催し地区全体で共有を図る。</p>

○取組経費（単位：円）

	事業費総額（見込み）	408,628
	うち助成金（見込み）	282,000
主な経費内訳（上位3項目）	広報・印刷費（防災リーフレット、行動マニュアル等印刷）	210,760
	事務費（マニュアル用ファイル、ファイリング作業）	197,868

取組名称	県地区での有休農地の解消
団体名	県農地耕さくらぶ
代表者氏名	木下 周次
地区名	県

取組みの目的	<p>農家の高齢化、就業者不足から飯田市並びに私たちの地区の県でも遊休農地が急増しています。遊休農地を少しでも減らし、地域の防災、環境、景観を守り、次世代につなげていきたい。</p> <p>発足して3年目の活動になります。58aの県地区の遊休農地にて水田を作りお米の販売をする事業をしています。</p>
具体的内容	<p>遊休農地にて、水田を作り遊休農地を減少させてゆく</p> <p>現状58aを行うが、新規の遊休農地も農業委員、農協と連動して取り組んでいく。</p> <p>作業上げ効率を上げ、継続可能な団体へと進化させる</p> <p>黒字化できる販売先の確保を行う</p>



説明 耩播き作業4月16日



説明 出植え作業5月24日



説明 稲刈り作業10月4日



説明 県ふれあい広場文化祭11月5日

取組の経過	<p>4月5日水田の補修作業 4月15日籾消毒 4月16日第一回籾播き 4月20日第2回籾播き 4月20日育苗ハウスづくり 4月23日育苗の育苗ハウスへの設置と育苗 4月25日二回目苗移動 4月26日田んぼの補強(畔波入れ) 5月13日総会 5月20日～(3回)畔の草刈り 5月20, 23日代掻き 5月24, 27日田植え 5月24日～水かけ 7月12日水田の中の草取り 9月26日10月4日稲刈り 9月27日10月5日籾摺り 11月5日鼎ふれあい広場文化祭にてもち米販売</p>
取組の効果	<p>当初の目的でした、遊休農地の解消と水田による環境美化や治水に関しては取り組んだ意義はあったと思います。収量は、除草対応が遅れすべての水田で収量を目標の50俵に対して、約7割となり事業の黒字化といった意味では厳しい状況でした。</p>
今後の取組	<p>引き続き、遊休農地の対応をできる範囲で行ってゆきます。 今後は、1、黒字化のために、早め早めの作業を行い計画の収量へつなげる。 2、効率的な運営をするために、水田の整備を行い水かけや除草の手間を防ぐ。 3、公民館等との連携や住民参加型の事業へとやり方を見直す。 など対応してゆきます。</p>

○取組経費 (単位：円)

	事業費総額 (見込み)	9,000,000
	うち助成金 (見込み)	300,000
主な経費内訳 (上位3項目)	機械リース、種子代、肥料代、農薬代	9,000,000